

支倉常長フェロー報告書

提出日 2011年11月15日

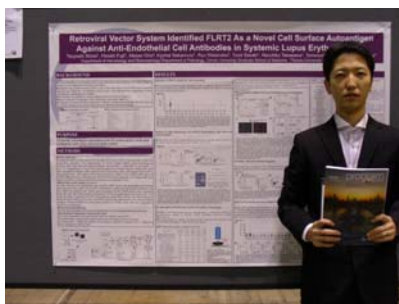


申請者	氏名	白井 剛志
	所属・職	血液・免疫病学分野・大学院生
出張期間	2011年 11月 4日 ~ 11月 10日	
渡航先	アメリカ合衆国・イリノイ州・シカゴ	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・()	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Retroviral Vector System Identified FLRT2 As a Novel Cell Surface Autoantigen Against Anti-Endothelial Cell Antibodies in Systemic Lupus Erythematosus	

得られた成果など

今回、NM-GCOEのご支援を頂き、2011年11月4日から11月9日にかけてアメリカ合衆国・イリノイ州・シカゴで開かれたアメリカリウマチ学会主催の学術集会:2011 American College of Rheumatology/the Association of Rheumatology Health Professionals (The ACR/ARHP) Annual Scientific Meeting に参加させていただきました。

本学会はリウマチ膠原病領域においては、国際的に最も大きい学会の一つであり、基礎研究、臨床研究、トランスレーショナルリサーチなど多岐にわたる分野から日々発表が行われました。当領域においては、近年、生物学的製剤による治療が脚光を浴びており、特に臨床研究を含めた報告が多くみられる傾向にあります。本学会は他疾患における病態の解明と治療に目を向けたセッションも数多く存在し、とても刺激を受ける事が出来ました。



今回の我々の発表内容は、レトロウイルスベクターを用いた新たな細胞膜自己抗原の同定系による、SLEでの新規自己抗原の報告ですが、多くの方に興味を持っていただき、多くのディスカッションができました。特に大動脈など主要分枝における血管炎は、国際的にも未だ明確なバイオマーカー

がなく、本学会でもヒトにおけるトランスレーショナルリサーチの必要性が議論されました。現在、我々が行っている血管炎における細胞表面对応抗原の同定により、これらの疾患において、臨床的活用、病態の解明、そして治療選択に活用できる可能性があることを改めて強く実感しました。